

## 令和3年度第2回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

日 時 令和3年11月18日(木) 10時00分～11時20分

場 所 平塚市役所本館7階720会議室

出席者

○ 委員10名

岩本委員、大田委員、野口委員、今村委員、小川委員、石橋委員、井上委員、松下委員、平林委員、富岡委員

欠席2名：小宮山委員、島本委員

○ 事務局7名

岩崎福祉部長、久保地域包括ケア推進課長、大川高齢福祉課高齢者相談支援担当長、笹井介護予防担当長、相原医療・介護連携推進担当長、日高主査、大関主査

○ オブザーバー2名

地域包括支援センターごてん 遠藤管理者、地域包括支援センターサンレジデンス湘南 大日向管理者

開 会

1 あいさつ

2 議題

<以下、進行は今村会長>

議事に入る前の報告事項

平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により、定足数である過半数の委員の出席を得て、成立いたしております。また、この運営協議会は平塚市情報公開条例第31条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は0名。

<事務局>

議事に入る前に、前回質問のあった点について回答する。まず、総合相談の項目の分け方で、「精神疾患」とはどういったものかという質問について、元々高齢になる前から、市の障がい福祉課が関わっていた方が65歳以上となり、地域包括支援センターで関わるようになったものや精神科の医療機関からの相談、または精神科の医療機関が関わっており、精神疾患に起因する幻聴、幻視、妄想などの行動が見られる人を「精神疾患」として区分している。

次に、包括支援センターの収支決算書のうち、サンレジデンス湘南の事業委託費について、予算額に対して決算額が大きくマイナスになっていたことについては、確認したところ、予算額の記載ミスであったことを報告する。

議題（１）令和３年度地域包括支援センターの前期ヒアリング結果について

<事務局>

資料１－１、１－２に基づき、地域包括支援センターの概要及び活動報告について、説明を行った。

また、オブザーバーから、担当地区の現状、活動状況について、説明を行った。

意見・質問

<委員>

通常の仕事の中でも色々な取組をされていて感銘を受けた。今お聞きした良い事例についての他の包括支援センターへの展開についてはどうか。地域によって事情は違うから、すぐには展開出来ないかもしれないが、好事例というのを参考にして他の包括支援センターも動けるかもしれない。各包括支援センターへの展開の仕方などはどうしているのか。

<事務局>

好事例の各包括支援センターへの展開ということだが、これは包括支援センター管理者連絡会の中で、包括支援センターの活動内容を報告していただいている。また、各包括支援センターが業務で使用している連絡ファイルというものがあるが、その中で紹介したりしている。

<委員>

評価というのは、各包括支援センターの自己申告か。

<事務局>

初めは各包括の自己評価で付けてもらい、それを市に提出してもらおう。(提出された計画書を)市で確認後、対面にてヒアリングを行い、評価の見直しをし、最終評価となっている。

<委員>

ヒアリング結果といっているが、レビュー結果なのかなと思う。「ヒアリング結果」という書き方だと誤解を生むような感じがする。包括支援センターと市が話し合って結果を見直していることをもっと宣伝した方が良いと思う。

<委員>

計画の立て方についてだが、具体的に、35ページの「取り組み・重点事項」の で、講座を開くというのが当初の計画があり、結果としてコロナ禍で開催できず、後期にチラシ配布となっている。こういった代替手段を予め考えているならば、どのタイミングで代替手段に移るのかというのも当初の計画に入れた方がよいのではと思う。

それから、46ページの の「内容」中、 について、「回覧板にて配布」とあるが、私の家の近くでは、アパートやマンションに結構高齢者の方が住んでいるが、そういった方には回覧板は回らないのではと思う。そういうアパートやマンションに住まわれる高齢者へのインフォメーションはどのようになされているのか。

<事務局>

まず、チラシの作成・配布というところを当初の計画に入れた方がよいのでは、ということだが、そのあたりを含めて、今まではコロナ禍を想定していなかった部分ではあるが、昨

年度、今年度の経験を活かして来年度からは、「チラシ作成・配布」も当初から(想定されるのであれば)入れるということを含括支援センターへ周知したい。

それから、チラシなどがアパート、マンションなどに配布されないのでは、ということだが、これは実際にそういうことがあると、個別でチラシを配布するか、訪問という形になる。実情としては厳しいかと思う。

包括支援センター管理者の方、現状はいかがか。

<包括支援センターサンレジデンス湘南>

実際に、自治会にも入っていないで、近所の付き合いも希薄になっていて、という方の想定はしている。回覧板が回らない場合は、ポスティングや、回覧板は A4 サイズだが、それを A3 サイズにして、スーパーや病院、福祉村の掲示板に掲示しようという取組を行っている。

議題(2) 令和4年度地域包括支援センター事業計画(案)について

<事務局>

資料2-1、2-2に基づき、各地域包括支援センターの事業実施に係る方針と事業計画について、説明を行った。

その後、当日配布資料(案1,2)の事業計画様式について、説明を行った。

意見・質問

<委員>

(案1,2の様式だと)書くところのスペースが少なくなってしまうのではないかと。計画との紐づけはいいが、ここまで文章(項目の表題)を書く必要はあるのかと。このスペースがあるなら、実施内容にスペースを使った方がいいのではないかと感じはする。包括支援センターが書きやすいものでないとダメだと思う。我々見るほうは、紐づけされている方が分かりやすいが、それ以上に重要なのは、何をやって、どういう問題があったのか、またそれに対して次はどういう風にするのかというのが分かるようにしておくことが大切だと思う。

<事務局>

事務局の中でも、実際に使う包括支援センターの職員が使いにくくなってしまっただけでは本末転倒なのではないかという意見があった。これは包括支援センターの方々に意見を聞きながら、またこちらの協議会でも意見を聞きながら、試行錯誤しながら進めていくものと考え、今回「案」としてお示しさせていただいた。

<委員>

PDCAが回るようなフォーマットでなくてはいけないし、PDCAで自分たちが考えて書けるように、みんながよくなっていくこと、地域がよくなっていくことに対してPDCAを回していくことを重点に置いて考えていかなければならないと思う。

<事務局>

こちらは引き続き検討させていただきたい。

<委員>

下の余白はこれだけ取っておかなければいけないのか。

<事務局>

印刷の縮小の縦横の比の関係で余白が出来てしまっているが、全体に縦に伸ばすことは可能（実施内容のスペースをもう少し確保することは可能）だが、（全体としての）枚数が多くなってしまい、（紙にすると）大分重くなってしまおうという問題もある。

<委員>

人によって見やすさというのは違うと思うが、私は、この評価を見る時に、何に向かってやっているのか、というのを頭に置きながら、どこまで行ったのか、というのが見られるといいと思っている。そういうところからいくと、この資料1-2の裏面に印刷してある指針（資料2【参考】に同じ）は、裏面でなくとも、別の用紙になっていても、それを持ちながら見比べられるのであればよいと思う。

あと、それぞれの活動の目標があって、それに対して指標があった方がよいと思うので、指標は残してほしい。あとは、これ以上文字が小さくなってしまおうと見えなくなってしまうと思う。

<事務局>

ここで結論ということではなく、頂いた意見を基に、どのように活かせるか検討していく。

### 3 報告事項

（1）指定介護予防支援事業所（地域包括支援センター）の实地指導について

<事務局>

資料3を基に、实地指導について、報告した。

意見・質問

<委員>

個人情報の取扱について、紙ベースが多いと思うが、電子的な取扱に関しても確認はしているか。

<事務局>

包括支援センターで使っているパソコンについては、毎月使用状況のログを取り、市で確認している。

（2）令和2年度地域支援事業の実績について

<事務局>

資料4に基づいて、報告した。

意見・質問

<委員>

2つ質問がある。資料4の表面の介護予防ケアマネジメントのところ、モニタリングとあるが、具体的にはどのようなことをやっているのかということと、もう一つは、裏面の生活支援体制整備事業とあるが、これは包括支援センターの関わり具合、またはどのようなことをやっているのか。

<事務局>

モニタリングについては、利用者宅に直接伺い、利用者の心身の状況について確認、聞き取りを行っている。

生活支援体制整備事業については、生活支援コーディネーターが各包括1名いる。その者が地域の中で声掛けを行い、会議の開催（支援）などを行っている。

7 その他

<事務局>

次に、次回開催予定は3月17日（木）を予定している。

閉会

以 上